

みつぎ便り

138号
3月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成31年3月1日 https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report/



ヒイラギナンテン（柎南天）

鋭いとげを持つ葉がヒイラギに、黄色い木で紅葉あるいは実がナンテンに似ていることから、両者の名前をそのままいただいで付けられたようです。別名の「トウナンテン（唐南天）」が示すとおり、原産は中国・台湾からヒマラヤで、日本には江戸時代初期に渡来したと言われています。

ヒイラギナンテンはいつも緑の葉を茂らせており、育てやすいことから公園のほか庭木にも広く利用されています。

見次公園では高速道路沿いに植えられていて、寒さの緩む三月～四月、黄色い小さな花が多数咲いているのが見られます。六月～七月頃になると、球形の果実は黒紫色に熟しますので、花から実と長い間の変化を楽しむことができます。

（利）



常緑高木樹

池の南側（高速道路側）の水門の近くに樹高十メートルほどの常緑樹が三本植えられています。今の季節ですので新芽や花が見られないので、幹の模様や葉の形から木の名前を調べてみました。アラクシもしくはシラクシと思われます。素人の悲しきか、これ以上絞り込むことはできませんでした。どちらもブナ科コナラ属の木で、いわゆるドンダリの木です。



名称にある「カシ」とはカタギ（堅い木）のことで「堅」と「木」を合わせて和名の「榿」を作りカシと読ませています。日本に自生する木の中で硬くて有用な木ということと思われます。その特徴を生かし、様々な建築材、器具材として利用されているようです。

シイ類やカシ類はブナと共に日本の温帯林で優先するブナ科の植物ですが、日本だけでなくヨーロッパでもオーク（ブナ科コナラ属のナラ、カシ）は森の王、ブナは森の母と呼ばれているようです。

（薫）